

陸前高田視察・交流プログラム 14 期（2013 年 1 月 19 日～1 月 20 日）

松山 真

<日程>

- 【行き】 19 日東京 716 発・大宮 741 発 「はやて 101 号」、一ノ関 932 着一ノ関発 942-気仙沼 1059 着
 【帰り】 20 日 気仙沼発 1800—一ノ関発 1928

19 日	<p>雪と寒さが厳しいことから、気仙沼まで電車で来て貰うことにする。気仙沼線で線路上に落石の危険有り点検のため電車が遅れる。 予定より 2 時半以上遅れ 1340 に全員揃う。</p> <p>気仙沼南駅付近、埋め立て工場地帯などを見て回る。</p> <p>14 鹿折唐桑駅付近を見て、『復興マルシェ』にて昼食</p> <p>15 サポートハウス到着</p> <p>1520 鮮魚シタボ 夕食食材購入と交流</p> <p>1730 吉田氏の家屋のあった場所を見たりした後、サポートハウスに戻り、吉田さんとスーパーに買い物に行く。</p> <p>18 吉田夫妻・照井氏（モビリア仮設住民）と一緒に夕食を作り食べながら交流（21 時ごろまで）</p> <p>22 ふり返り</p> <p>24 風呂に順番に入り、就寝準備（電気カーペットを敷いたり） 就寝</p>
20 日	<p>8 起床</p> <p>930 モビリア仮設 平氏にあいさつ。（帆立・イカ差し入れ）</p> <p>1000 照井氏宅訪問。昨夜と異なり色々とうれしそうに話しをして下さる。</p> <p>1140 吉田氏宅訪問。写真や手紙を見ながら色々話して下さる。</p> <p>1400 八起プロジェクトに挨拶し、モビリア展望台から高田地区を見る</p> <p>1500 一旦サポートハウスに戻り、帰りの支度をし、ホームックで断熱材など購入し、矢作仮設桜田氏宅訪問。アコーディオンカーテン下の隙間を塞ぎ、鉄板の壁に断熱材を貼る。津波のことや様々な話しをして下さる。</p> <p>1700 気仙沼に出発、気仙地区の被害状況を見て</p> <p>1730 気仙沼駅到着。帰りの切符購入</p> <p>1800 気仙沼駅発。夜 22 時過ぎ、無事帰宅したと参加者からメールあり。</p>

<プログラムについて>

- ・ 事故で気仙沼到着が大幅に遅れたが、訪問先を調整して仮設住宅での滞在時間を増やした。
- ・ 2 日間で 3 軒の仮設住宅に上がり、1 時間から 2 時間交流することができた。
 照井氏-自分が掲載された新聞記事などを見せて、被災後の生活などを話してくれた。「人が来てくれて話しをすることが出来るとうれしい。いつも一人で誰とも話さないから。」
 吉田氏-昨年 6 月以降の写真や手紙、アルバムなどを見せながら「学生との文通は生き甲斐。毎月学生が来てくれる生活出来るようになるとは思わなかった。本当に楽しい。仮設住宅で一番の幸せ者です。」
 桜田氏-被災前の生活、今考えていること、親子のありかたなど様々に話しをして下さる。
 シタボー13 期で作った看板は入り口上に固定されていた。ネオンも点いて、何も無い中でそこだけ明るくなった。
- ・ 一緒に食事を作るが、今回は鱈鍋、鱈刺身、サメ味噌煮、ひつつみ、フグの刺身でした。
- ・ 視察としては、陸前高田市役所、マイヤなどの周辺を歩きましたが、解体が開始されています。陸前高田高校はもう 4/5 は解体されています。市民体育館はありません。
- ・ 市役所前にあった慰霊台は、道の駅前に移され、残る 40 カ所の建物は 3 月までに全て解体される予定ですし、県立病院、郵便局など解体中です。もう見る機会はないと思います。
- ・ ホットカーペットにシーツを敷いて寝ることで、夜の寒さはなんとか凌げました。二日間とも 0 度程度で寒い日が続

きました。でも星は綺麗でした。

- ・ 外を歩くのは風が冷たく長時間は無理です。市役所・マイヤ周辺に絞りました。



鮮魚シタボ仮設店舗・看板は入り口の上に



いつものように学生の相手をして下さるシタボさん



一緒に鍋を作っています



食べながらの歓談/大量の食事



仮設住宅に上がって交流



陸前高田駅前から市役所 マイヤ